

科目名	現代の国語	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組 普通科 1年2組
学習の到達目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力を伸ばす。 2 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 3 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		教科書・副教材等	高等学校 標準現代の国語 (第一学習社)	
評 価					
観 点	評 価 規 準			方 法	
関心・意欲・態度	国語の知識や技能を身につけ、実社会に役立てようとしている。			・授業態度、授業プリント、ノート、課題	
思考・判断・表現	自分の思いや考えを広げたり深めたりして、伝え合う力を身につけている。			・授業態度、授業プリント	
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して他者への理解を深め、社会に関わろうとしている。			・定期考査、授業態度、授業プリント、ノート、課題	
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	○オリエンテーション ○単元 世界を広げる 「なぜ本を読むのか」(随筆) 「世界は謎に満ちている」(リ) ○単元 言葉が開く世界 「言葉遣いとアイデンティティ」 ○言語活動(1) 話し方の工夫・待遇表現・論理的な表現		・高校の国語の授業や勉強方法について理解する。 ・筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分に照らして考えを深める。 ・「世界は謎に満ちている」ことを説明するための工夫を、文章の構成や取り上げられた事例から把握する。 ・言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。		中 間 ・ 期 末
2 学 期	○単元 人間と文化 「水の東西」(評論) 「ステレオタイプの落とし穴」(評論) ○単元 生活の中の表現 「法律の改正に関わる文章を読み比べる」 ○単元 社会と人間 「人はなぜ仕事をするのか」 ○言語活動 「情報の探索と選択」 「スピーチで自分を伝える」 「相手に伝わる案内をする」		・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・ステレオタイプとは何かを説明するための論展開を把握し、筆者の主張について理解を深める。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・筆者が述べる仕事の本質について考察する。 ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・目的に沿って相手に配慮しながら案内する方法を理解する。		中 間 ・ 期 末
3 学 期	○単元 現代と社会 「イースター島になぜ森がないのか」 「黄色い花束」 ○言語活動 「書き方の基礎レッスン」 「地域の魅力を紹介する」 「社会に対する意見文を書く」		・筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ・戦争や平和について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・表記・表現の基本ルール、接続表現の種類や用法、比喩などの表現技法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。		学 年 末
【技能審査の成果の単位認定】					
・在学中に「日本漢字能力検定2級」を取得した場合は、申請すると技能審査の成果の単位認定が行われ、「現代の国語」の単位数に2単位を加えることができる。					

科目名	言語文化	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組 普通科 1年2組
学習の到達目標	言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。			教科書・副教材等	高等学校標準言語文化(第一学習社)
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・話し合い ・学習課題の提出 	
思考力、判断力、表現力等	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・話し合い ・学習課題の提出 	
学ぶに向かう力、人間性等	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ポートフォリオ 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	とんかつ (三浦哲郎) 児のそら寝 (宇治拾遺物語集) 羅生門 (芥川龍之介) 漢文入門	<ul style="list-style-type: none"> ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解する。 ・場面の展開をとらえ、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知らせる。 			中間・期末
2 学 期	よろこびの歌 (宮下奈都) 絵仏師良秀 (宇治拾遺物語) 詩の楽しみ 道程 (高村光太郎) 小景異情 (室生犀星) 二十億光年の孤独 (谷川俊太郎) 故事成語 五十歩百歩 (孟子) 矛盾 (韓非子)	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公「私」の心情の動きを読み取る。 ・積極的に説話を読ませ、叙述に基づいて人物造形の面白さを捉える。 ・近代詩の鑑賞の仕方を理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・それぞれの詩の発想のおもしろさや、優れた表現を理解する。 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 			中間・期末
3 学 期	夢十夜 (夏目漱石) 枕草子 (清少納言) 鏡 (村上春樹)	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作者の感性の細やかさに気付かせ、現代に相通ずる美意識を理解する。 ・幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。 			学年末

科目名	歴史総合	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組 普通科 1年2組
学習の到達目標	近現代の歴史の変化に関わる事象について、日本史と世界史の関連性を理解し、グローバルな視点から課題を多角的・多面的に考察、議論する力を養うとともに、国際社会の形成者として、我が国の歴史や他国の文化を尊重する資質や能力を育むことを目指す。			教科書・副教材等	歴史総合 わたしたちの歴史 日本から世界へ (山川出版社)
評価規準					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、広い視野から世界と日本を捉え、近現代の歴史を理解している。諸資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業プリント、ノート 資料の読み取り 	
思考力、判断力、表現力等	近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色を相互の関連性や現在とのつながりに着目して、多角的・多面的に考察できる。また、歴史にみられる課題を把握し、解決に向けた構想や説明、話し合いができる。			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ノートなどの提出物 資料の読み取りや活用 	
学ぶに向かう力、人間性等	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、より良い社会の実現に向けて課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身に付けている。国際社会の形成者として、日本の歴史、他国や他国の文化、国際平和を尊重することの大切さを認識している。			<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度 ノートなどの提出物 課題発見及び解決に関する論述やレポート 	
学 習 計 画					
学 習 内 容			学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	第1部 近代化と私たち 近代化への問い 1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合		<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 アジアの繁栄、ヨーロッパ各国のアジア進出、世界的な規模での経済発展について理解する。 清や江戸幕府の統治法や経済成長について学び、琉球とアイヌの役割に留意して、江戸時代の日本の商品生産や対外貿易の特徴を理解する。 産業革命によるヨーロッパ各国の変化を理解し、世界的な影響を考える。 開国後、日本では欧米の知識・技術の受容が進んだことを理解し、この時代の国際的諸運動の進展や社会の変容について具体例を整理する。 日本の産業革命の展開や、紡績業・製糸業の発展を理解し、その特徴を考察する。 帝国主義とは、どのような状況で、どのようにして生まれたのか、その後の世界にどのような影響を与えたかを世界的な視野で話し合う。 		中間・期末
	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い 1 大衆運動の芽生え 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア進出 12 第二次世界大戦 13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立		<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察し、総力戦による社会の変化を学ぶ。 日本の参戦後、日中両国間での動きを世界的な視野から考察する。 国際協調のなかで結ばれた条約の内容を整理し、各民族による独立や国家建設の動きについて理解を深める。 恐慌が世界に波及した要因を探り、その後の世界にあてた影響を考察する。 第二次世界大戦が戦後の世界にどのような影響を与えたかを考え、グローバルな視点から考察したことを話し合う。 連合国による日本の民主化政策理解し、その目的や特徴を探る。 連合国による日本の占領政策の転換について理解し、それが日本の政治・経済にどのような影響を与えていったかを考察する。 		中間・期末
	第3部 グローバル化と私たち グローバル化への問い 1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と雪解け 3 冷戦の展開 4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国 9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦の地域紛争 13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題		<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 国際社会で第三世界が形成された背景と、その活動について理解する。 ベトナム戦争発生時の背景や経過、アメリカの政治におよぼした影響について考察する。 1970年代の東西の緊張緩和の経過を理解し、その背景となった米ソの威信低下や、米中接近の理由を探る。 高度経済成長後も、日本が安定成長を維持できた理由について理解する。 冷戦後の世界で、経済のグローバル化が進んだことで生じた社会の変化を認識し、グローバル化の前提となった、地域統合や自由貿易圏、WTOの設立の意義を対話によって理解を深める。 日本の諸課題について、国内で、また、諸外国との関係でどのように対応が必要か多面的・多角的に考察し、探究する。 		学年末

科目名	数 学 I	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			教科書 ・ 副教材	新 高校の数学 I (数研出版) ポイントノート数学 I (数研出版)
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解答 ・発問に対する応答 ・プリント ・定期考査 	
思考力、判断力、表現力等	各単元において適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したり、数理的に考察する力を養う。			<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解答 ・ノートのまとめ方 ・プリント ・定期考査 	
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			<ul style="list-style-type: none"> ・課題への取組 ・ノートのまとめ方 ・発問に対する応答 ・定期考査 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	第1章 数と式 第1節 数と式の計算 第2節 1次不等式 第4章 集合と論理	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で学んだ基本事項の復習と基礎計算を中心にした問題演習を行い、学習内容の定着を確認する。 ・整式の加法、減法の計算ができるようにする。 ・式を、1つの文字に着目して整理したり、置き換えたりするなどして、既に学習した方法と関連付けて処理できるようにする。 ・新たな因数分解公式を加えて、因数分解を自在に使いこなせるようにする。 ・数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の計算ができるようにする。 ・数量の間の大小関係や不等式の性質を理解して、1次不等式の解き方を習得する。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 			中間・期末
2 学 期	第2章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3章 図形と計量 第1節 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに関連しながら変化するものとしての関数の概念や関数の定義域・値域を理解する。 ・2次関数のグラフの特徴を理解するとともに、グラフをかけるようにする。 ・2次関数の値の変化について理解する。 ・2次方程式の解とグラフの関係を理解し、グラフを用いて2次不等式を解けるようにする。 ・三角比としてのタンジェント、サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺と角の間の基本的な関係を使えるようにする。 ・座標を用いた鈍角の三角比の求め方を理解する。 ・日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決できるようにする。 			中間・期末
3 学 期	第2節 三角比の応用 第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の三角形の辺と角との間に成立する三角形の面積の公式と、正弦定理、余弦定理を導き、それらを活用できるようにする。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 			学年末

科目名	科学と人間生活	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	<p>1 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての理解を深め、観察、実験などに関する技能を身に付け、人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養う。</p> <p>2 自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>	教科書・副教材等	高等学校 科学と人間生活 (啓林館)	高等学校 科学と人間生活の学習ノート (啓林館)	
評価					
観点	評価規準			方法	
知識及び技能	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 問題プリント 実験レポート ノート 	
思考力、判断力、表現力等	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。			<ul style="list-style-type: none"> ノート 定期考査 ワークシート 実験レポート (考察) 	
学びに向かう力、人間性等	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。			<ul style="list-style-type: none"> ノート 実験レポート 発表の内容 実験への取り組み 課題の提出状況 	
学習計画					
	学習内容	学習のねらい			考査
1学期	序章 科学技術の発展 第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 第2章 微生物とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の進歩・発展を、通信・医療・交通技術を例にして、人間生活に果たしてきた役割を学ぶ。 タンパク質と遺伝子、ヒトの視覚と光、血糖濃度の調節、免疫について学び、ヒトの生命現象について理解する。 生態系における微生物のはたらき、微生物と人間の食生活・医学とのかかわりについて学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。 			中間・期末
2学期	第2部 物質の科学 第1章 材料とその利用 第2章 衣料と食品 第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 第2章 熱の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック、金属、セラミックスが、それぞれの材料の特徴を生かして、身のまわりのさまざまなところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。 衣料、染料、洗剤、食品などについて学び、その性質や利用のしかたについて化学の観点から理解する。 光の波としての分類や性質、電磁波について学び、どのように利用されているかについて理解する。 熱の性質とその利用、エネルギーについて学び、エネルギーの移り変わりなどについて理解する。 			中間・期末
3学期	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球 第2章 自然景観と自然災害 終章 これからの科学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 太陽や月の構造や見え方や、これらの身近な天体が引き起こす潮汐や大気の運動について学び、太陽や月が地球の大気や海洋、人間生活におよぼす影響を理解する。 地球の活動と、人間と自然のかかわりを学び、身近な自然景観とその変化、自然災害について、地域の特性や地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。 第1部から第4部で選択した学習内容を踏まえ、生徒の興味・関心等に応じて、自然や科学技術に関連した課題を設定し考察させる。 			学年末

科目名	体育	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科1年1組、普通科1年2組
学習の到達目標	1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付ける。 2 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、思考、判断し、自己や仲間の考えを他者に伝える力を養う。 3 公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にする意欲や、継続して運動に親しむ態度を養う。			教科書・副教材等	現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート (大修館書店)
評 価					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・スキルテスト ・小テスト 	
思考力・判断力 ・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや技、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方を工夫したり、考えを他者に伝えたりする。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 (個人練習およびグループ活動の様子) ・プレゼンテーション 	
学びに向かう力 ・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組むことができる。 ・フェアなプレイを大切にしようとしたり、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 (試合中の様子および審判法) 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考 査
1 学 期	1 体育の学習について 2 体育理論 3 体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における「保健体育」の特性や意義・内容・評価の方法を理解し、現代社会におけるスポーツの意義や必要性、スポーツライフの設計と実践についての理解を深める。 ・集団行動の意義や行い方を理解する。 ・自己の体力や能力の特徴を把握し、合理的な練習を通して課題解決を図り、記録の向上や相手との競争の喜びや楽しさを味わうことができるようにする。 (体操・ダンス) ・リズムの取り方や動き方、相手との対応の仕方などを工夫して踊りを楽しみ、他者と交流することができるようにする。 (球技) ・技能に応じた攻め方・守り方とルールを工夫して練習やゲームができるようにする。 ・攻防の作戦を立てて勝敗を競い合う過程で楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 ・互いが協力して作戦を立てて、集団技能や個人的技能を活用して試合ができるようにする。 (武道) ・日本古来の伝統的な行動を重視した運動としての特性を理解し自己の能力に応じた技を習得して相手の動きに対応した攻防ができるようにする。また、相手を尊重する態度・自己制御の大切さなどについて学習する。 (陸上競技) ・自己に適したペースで走ることができ、自己の記録に挑戦できるようにする。 ・動きを持続する能力を高める運動ができるようにする。 (体育理論) ・スポーツの変容や我が国から世界に発展したスポーツがあること、スポーツが国際親善や世界平和、共生社会の実現に貢献していること、スポーツには経済的な波及効果があることや持続可能なスポーツの推進には環境や社会への影響を考慮する必要があることを理解する。 			実施なし
2 学 期	1 体操・ダンス 2 球技・武道(選択) バスケットボール バレーボール テニス ハンドボール 柔道・剣道 3 陸上競技(中長距離走)	<ul style="list-style-type: none"> ・技能に応じた攻め方・守り方とルールを工夫して練習やゲームができるようにする。 ・攻防の作戦を立てて勝敗を競い合う過程で楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 ・互いが協力して作戦を立てて、集団技能や個人的技能を活用して試合ができるようにする。 (武道) ・日本古来の伝統的な行動を重視した運動としての特性を理解し自己の能力に応じた技を習得して相手の動きに対応した攻防ができるようにする。また、相手を尊重する態度・自己制御の大切さなどについて学習する。 (陸上競技) ・自己に適したペースで走ることができ、自己の記録に挑戦できるようにする。 ・動きを持続する能力を高める運動ができるようにする。 (体育理論) ・スポーツの変容や我が国から世界に発展したスポーツがあること、スポーツが国際親善や世界平和、共生社会の実現に貢献していること、スポーツには経済的な波及効果があることや持続可能なスポーツの推進には環境や社会への影響を考慮する必要があることを理解する。 			実施なし
3 学 期	球技・武道(選択) ハンドボール サッカー バスケットボール バレーボール 柔道・剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・技能に応じた攻め方・守り方とルールを工夫して練習やゲームができるようにする。 ・攻防の作戦を立てて勝敗を競い合う過程で楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 ・互いが協力して作戦を立てて、集団技能や個人的技能を活用して試合ができるようにする。 (武道) ・日本古来の伝統的な行動を重視した運動としての特性を理解し自己の能力に応じた技を習得して相手の動きに対応した攻防ができるようにする。また、相手を尊重する態度・自己制御の大切さなどについて学習する。 (陸上競技) ・自己に適したペースで走ることができ、自己の記録に挑戦できるようにする。 ・動きを持続する能力を高める運動ができるようにする。 (体育理論) ・スポーツの変容や我が国から世界に発展したスポーツがあること、スポーツが国際親善や世界平和、共生社会の実現に貢献していること、スポーツには経済的な波及効果があることや持続可能なスポーツの推進には環境や社会への影響を考慮する必要があることを理解する。 			実施なし

科目名	保健	単位数	1	学科・学年・学級	森林環境科1年1組、普通科1年2組
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。			教科書・副教材等	現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート (大修館書店)
評 価					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 健康安全の意義を理解するとともに、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、正しい知識を身に付けている。 実習を伴う内容については、その手順や注意事項を理解し、安全に実施することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 各学期末考査 ノート レポート内容 授業観察 	
思考力・判断力 ・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えようとしている。 身に付けた知識や技能を実生活に活かすための方法や注意点をまとめ、他者と共有したり伝えたりする。 			<ul style="list-style-type: none"> レポート内容 授業観察 プレゼンテーション 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考 査
1 学 期	1 現代社会と健康 (1)健康の考え方と成り立ち (2)私たちの健康のすがた (3)生活習慣病の予防と回復 (4)がんの原因と予防 (5)がんの治療と回復 (6)運動と健康 (7)食事と健康 (8)休養・睡眠と健康 (9)喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 我が国において現代の健康課題がみられること、健康の考え方が変化してきていること、生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること、喫煙は健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であることを理解する。 現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 			期 末
2 学 期	(10)飲酒と健康 (11)薬物乱用と健康 (12)精神疾患の特徴 (13)精神疾患の予防 (14)精神疾患からの回復 (15)現代の感染症 (16)感染症の予防 (17)性感染症・エイズとその予防 (18)健康に関する意思決定・行動選択 (19)健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わること、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であることを理解する。 現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 			期 末
3 学 期	2 安全な社会生活 (1)事故の現状と発生要因 (2)安全な社会の形成 (3)交通における安全 (4)応急手当の意義とその基本 (5)日常的な応急手当 (6)心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事故等の発生には人的要因や環境要因に関わること、交通事故などの防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であること、安全な社会の形成には、個人の安全に関する資質の形成、環境の整備、地域の連携などが必要であることを理解する。 心肺蘇生法を含む応急手当の技能を身に付ける。 安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができる。 			学 年 末

科目名	音楽 I	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組	
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化への理解を深める。			教科書 ・ 副教材等	音楽 I Tutti+ (教育出版)	
評 価						
観 点	評 価 規 準			方 法		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 ・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、表現している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・実技テスト ・小テスト 		
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わっている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・実技テスト ・小テスト 		
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとっての音楽の存在を再認識することや音楽を幅広く様々な視点から捉えようとすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・実技テスト ・小テスト 		
学 習 計 画						
	学 習 内 容			学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	1 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> ・校歌、ポピュラーソング ・合唱 2 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽 ・さまざまな時代のピアノ曲を聴こう 3 器楽 <ul style="list-style-type: none"> ・トーンチャイム ・リズムアンサンブル 			<ul style="list-style-type: none"> ・校歌の歴史や歌詞の意味等を理解し、歌えるようにする。 ・腹式呼吸と発声法を身に付け、のびやかな声で生き生きと表現できるようにする。 ・それぞれの時代背景や演奏形態、作曲者、楽曲の特徴などを学習し、そのよさや美しさを味わう。 ・トーンチャイム演奏を通して互いを理解しあう。 ・リズムアンサンブルの演奏を通してリズムに親しむとともに、アンサンブルの楽しさを知る。 		実施なし
2 学 期	1 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲を歌おう ・合唱、アンサンブル 2 創作 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル・ミュージックを楽しもう ・言葉を生かして旋律をつくろう 3 器楽（ギター） <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な奏法 ・弾き語り 			<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜中に出てくる記号や用語の意味を理解し、表現できるようにする。 ・原語のもつ語感を把握し、曲想を感じ取って表現できるようにする。 ・パートの役割を意識し、協力し合って主体的に合唱活動しながら、声を重ね合わせる喜びを味わう。 ・体の様々な部位を使って音色を工夫したり、構成を工夫したりしながら表したいイメージをもってテーブル・ミュージックを作り、演奏する。 ・抑揚、アクセント、リズムなどの言葉の特徴を感じ取り、自己のイメージをもって旋律をつくる。 ・楽器の奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながら演奏する楽しさを味わう。 		実施なし
3 学 期	1 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の音楽 ・物語と音楽との関わりに注目しよう 2 歌唱 3 卒業式の練習			<ul style="list-style-type: none"> ・日本の音楽について理解し、関心を持ちながら鑑賞する。 ・総合芸術において物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているかを考える。 ・総合芸術の魅力を歌唱を通して感じる。 ・式典音楽の意義について理解し、意欲的に活動する。 		実施なし

科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	1 日常的な話題について、多くの支援を活用すれば、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。	教科書・副教材等	All Aboard! English Communication I (東京書籍) プレッピングリッシュ3訂版 (旺文社)		
評価規準					
観点	評価規準			方法	
知識・技能	・英語運用に必要な文法事項や表現を理解している。 ・知識を基にして、必要な情報や話し手・書き手の意図、概要や要点を目的に応じて捉えたり、基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につけている。			・課題テスト ・定期考査 ・課題の達成状況の記録	
思考・判断・表現	・必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、話題について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えている。			・定期考査 ・言語活動の取り組み状況の観察	
主体的に学習に取り組む態度	・必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えようとしたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、話題について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えようとしている。			・発言、発表の内容 ・授業内の活動状況	
学習計画					
	学習内容	学習のねらい			考査
1 学期	Warm-Up 1,2,3 Pre-Lesson 1,2	・授業でよく使われる英語表現を学習する。 ・英語による自己紹介の仕方を学習する。アルファベット・be動詞・一般動詞について復習する。			中間・期末
	Lesson 1 Breakfast around the World	・世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。現在形・過去形を学習する。			
	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	・オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。進行形を学習する。			
2 学期	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	・被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。助動詞を学習する。			中間・期末
	Lesson 4 A Miracle Mirror	・海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。to不定詞について学習する。			
	Lesson 5 Learning from the Sea	・高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。動名詞を学習する。			
	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	・歌川国芳について読み、浮世絵と現代マンガの関連性について考える。受け身を学習する。			
3 学期	Lesson 7 A Diary of Hope	・アンネ・フランクの日記を紹介する授業を通して、生きることの意味を考える。比較表現を学習する。			学年末
	Lesson 8 A Door to a New Life	・ロボットカフェの紹介を通して、ロボットの可能性について考える。現在完了形について学習する。			
	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	・環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。名詞を後ろから説明する分詞について学習する。			
	Lesson 10 Pigs from across the Sea	・沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人の交流について学習する。関係代名詞について学習する。			
【技能審査の成果の単位認定】 ・在学中に「実用英語技能検定2級」を取得した場合は、申請すると技能審査の成果の単位認定が行われ、「コミュニケーション英語Ⅰ」の単位数に3単位を加えることができる。					

科目名	家庭基礎	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	1 青年期を起点として自分の生き方を考えさせ、子どもや高齢者などの異なる世代と関わり共に生きる力を育成する。 2 持続可能な社会の構築を目指して健康や環境に配慮しながら自立して生活する能力を育成する。 3 男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成する。	教科書・副教材等	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社) 家庭科ノート 調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)		
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準			方 法	
主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。			<ul style="list-style-type: none"> 授業中の態度や発表等 課題やノート、ワークシート 作品 	
思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。			<ul style="list-style-type: none"> 課題やノート、ワークシート、感想 実習の計画、記録 作品 定期考査 	
知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。			<ul style="list-style-type: none"> 課題やノート、ワークシート 実習態度・作品 定期考査 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	家庭科を学ぶみなさんへ Skill Up家庭科! 1章 これからの生き方と家族 2章 次世代をはぐくむ 3章 充実した生涯へ 4章 ともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築には多くの世代・多様な人たちの参加が必要であることがイメージできるようにする。 問題の発見、調査・情報収集、ほかの考えを持つ人との対話、自分の考えの表現方法などが身に付くようにする。 人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉について考え、共に支え合って生活することの重要性について認識する。 			期末
2 学 期	6章 衣生活をつくる 7章 住生活をつくる 8章 経済生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。 住居の機能、住居と地域社会のかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。 消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。 			期末
3 学 期	5章 食生活をつくる Enjoy 家庭科! 章末「ホームプロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。 家庭科で学んだことを自分の生活に照らして考え、課題を見つけ、「ホームプロジェクト」「学校家庭クラブ活動」を通じて、幅広い知識と教養を身に付けるようにする。 			学年末

科目名	情報 I	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 普通科	1年1組 1年2組
学習の到達目標	<p>1 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人の関わりについて理解を深める。</p> <p>2 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>	教科書・副教材等	最新情報 I (実教出版) 最新情報 I 学習ノート (実教出版)	評 価		
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識及び技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。				<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ノート ・製作された作品 	
思考力、判断力、表現力等	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。				<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・定期考査 ・製作された作品 	
学びに向かう力、人間性等	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・毎時間の取組状況 ・実習への取組状況 	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	<p>オリエンテーション 第1章 情報社会と私たち</p> <p>第2章 メディアと情報デザイン</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の現状、特性、及び情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ・知的財産権、著作物、個人情報、プライバシーについて理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。 ・メディアの特性を理解し、目的に応じたメディアを選択するとともに、インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 ・情報を正確にわかりやすく伝える情報デザインについて理解する。 			期末
2 学 期	<p>第3章 システムとデジタル化</p> <p>第4章 ネットワークとセキュリティ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と動作の仕組み、ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解し、数値や文字、音声、静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報通信ネットワークの構成、データを効率よく転送する工夫について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術、情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 			期末
3 学 期	<p>第5章 問題解決とその方法</p> <p>第6章 アルゴリズムとプログラミング</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見、明確化、検討・整理・分析、解決案の決定、評価する方法について理解する。 ・表計算ソフトを用いたデータの分析方法やその活用方法について理解する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、問題解決のためにシミュレーションを活用する。 ・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。 			学年末

科目名	農業と環境	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	1 体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	教科書・副教材等			農業と環境 (実教出版)
評 価					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全や農業生物の育成など環境と農業に関する基礎的な知識を身に付け、環境と人間生活の関係や農業生物の特性と栽培環境の関係を理解している。 			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業で使用するプリント レポート 	
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 環境や農業に関する課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身に付ける。 調査結果や栽培の観察・考察などを正確に表現している。 			<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容や仕方 定期考査の論述問題 	
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 環境や農業に関する課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 実習態度 レポート 発表の内容や仕方 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	1 環境と人間生活 (1) 森林、河川、耕地の生態系 ア 生態系のしくみ イ 森林の生態系 (2) 地球環境と人間生活 ア 森林機能 イ 環境と調和した農業 2 農業生物の育成 1 (1) イネの栽培と利用 1		<ul style="list-style-type: none"> 地域環境の観察や統計資料及び地球環境に関する衛星情報や統計資料などによる具体的な事例を通して、生態系が人間社会に深く関わっていることを理解する。 森林、農耕地、都市などの生態系の特徴を理解するとともに、これらの生態系が人間の生活や経済活動によってどのような影響を受けているか耕地や農村、都市の生態系とを対比して理解する。 作物などの農業生物の生育過程などの基礎的な知識を習得し、農業生物の生理、生態的な特性と規則性について理解する。 		中間・期末
2 学 期	3 農業生物の育成 2 (1) イネの栽培と利用 2 (2) 緑化用草花の栽培と利用 4 環境の保全、創造 (1) 森林と環境保全 (2) 緑地と景観創造 ア 農村の環境整備 イ 河川の環境整備 ウ 都市環境の創造		<ul style="list-style-type: none"> 森林資源の管理方法、森林保護の方法などの学習を通して、森林の環境保全機能に関する基礎的な知識と技術を習得する。 農村や水辺、都市の緑地による景観の維持と創造に関する知識と技術を習得し、農村の環境整備のあり方を考える。 河川環境を理解し、自然に近い川づくりの考え方を理解する。 		中間・期末
3 学 期	5 環境学習と学校農業クラブ活動 (1) プロジェクト学習 (2) 学校農業クラブ活動		<ul style="list-style-type: none"> 「農業」におけるプロジェクト学習は、生徒自身が、課題設定、計画、実施、反省、評価することを理解する。 教科「農業」の目標の達成を目指すとともに、科学性、社会性、指導性の育成を目標にしていることを理解する。 		学年末

科目名	総合実習	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	1 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	教科書・副教材等	なし		
評価					
観点	評価規準			方法	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 農業生物や林産物の育成、生産物の有効利用など、農林業に関する基礎的な知識を身に付けている。 各専攻分野における技能が身に付いている。 			<ul style="list-style-type: none"> 発表の内容や仕方 作業の精度 農業鑑定競技 	
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 農林業の特性と農林産物の栽培管理方法について多面的に考察し、栽培方法や加工技術などの基礎的な知識・技術を活用した課題解決に向けての実践的な能力が身に付いている。 プロジェクト活動の記録や考察が正確に表現できている。 			<ul style="list-style-type: none"> 実習態度 実習記録簿 	
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 農作物や林産物の育成から加工品の開発など、農林業を体系的に捉え、意欲的に取り組む態度を身に付けている。 班員と協力して作業を行うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 実習態度 プロジェクト活動 	
学習計画					
	学習内容	学習のねらい			考査
1学期	○園芸 1 夏野菜・草花の栽培 ○育林 1 さし木 2 苗畑管理 3 林地管理 ○林産加工 1 製造 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表 3 農業鑑定競技	<ul style="list-style-type: none"> 栽培に必要な技術と作業内容の概要を学ぶ。 さし木の作業手順とさし木後の育苗について学習し、さし木用土と発根の関係について調査・観察を行う。 種子繁殖と栄養繁殖の違いについて学習する。 帯のこ盤の種類や構造について学習し、製材機械を安全に取り扱う知識・技術を身に付ける。 製材の際に出てくるおがくずの有効利用について学習する。 農業鑑定競技実施基準の中から、林業に関する実物鑑定を行う。 栽培・管理をとおしてプロジェクト活動を行う。 日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。 			実施なし
2学期	○園芸 1 秋冬野菜・草花の栽培 ○育林 1 樹木生育調査 2 枝打ち ○林産加工 1 製造 2 キノコ栽培 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表	<ul style="list-style-type: none"> 栽培に必要な技術と作業内容の概要を学習する。 地域の森林・林業の実態を学習し、森林管理の重要性和望ましい森林の姿を考察する。 スギ、ヒノキの枝打ち実習を行い、その目的と方法を学習する。 手押しかな盤を用いて、製材した面を平らに面削りする実習を行う。 キノコの主な栽培方法として、原木栽培及び菌床栽培を学習する。 栽培・管理をとおしてプロジェクト活動を行う。 日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。 			実施なし
3学期	○園芸 1 圃場の土作り・整備 ○育林 1 農具の手入れ 2 苗畑管理 ○林産加工 1 木材の工作 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動	<ul style="list-style-type: none"> 農閑期における作業が次の管理の効率化に結び付くことを学習する。 木登り器を用いた枝打ち方法について学習し、刃物の使い方や研磨方法について学習する。 山出し苗の育苗と苗木の管理方法について学習する。 1・2学期に学習した製材及び加工の機械を活用し、木材工作を行う。 木工品の製作をとおして、間伐材を有効利用することの重要性を学習する。 栽培・管理をとおしてプロジェクト活動を行う。 			実施なし

科目名	森林科学	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学習の到達目標	1 森林の仕組みと機能を知り、地域ごとの自然環境に適した管理の知識を学ぶ。 2 森林生態系と材木の生育特性を理解するとともに、森林を統合的に利用できる力を身に付ける。 3 森林を保全、再生する場面で活用できる応用力を養う。	教科書・副教材等	森林科学	(実教出版)	
評 価					
観 点	評 価 規 準			方 法	
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 森林の多面的機能や森林管理の意義や今日的な課題に関する知識を身に付け、育苗、造林、保育や伐採などの実習及び森林や林木などの調査を行う技能を身に付けている。 			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 学習活動への取組 ノート作成 	
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 育苗、造林、保育や伐採などの実習及び森林や林木などの調査、観察や実験など学習活動の成果を考察し、適切に表現できる。 			<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の論述問題 発表の内容や方法 	
学びに向かう力 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 森林や林業に関する課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> レポート 実習態度 発表の内容や方法 	
学 習 計 画					
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 森林の役割 ア 森林の多面的機能 イ 森林管理の意義	<ul style="list-style-type: none"> 森林の機能は、多面的な機能をもつことが最大の特徴であり、いろいろな機能が複合的に発揮されることで、総合的に大きな効果が得られるものになることを学習する。 森林のもつ多面的な機能を維持するためには、森林の健全性と活力の維持を図る森林管理が重要であることを学習し、我が国の森林の育成、保全、利用における課題について考える。 			中間・期末
2 学 期	2 森林の生態 ア 森林の生態と分布	<ul style="list-style-type: none"> 森林生態系ごとの樹種別割合、植物・動物・菌類や微生物の相互関係及び水や炭素などの物質循環について学習する。 我が国と世界の森林帯の分布及び森林の遷移について学び、森林植生の分布と緯度や標高に伴う気候の違いとの関係を理解する。 			中間・期末
3 学 期	イ 林木の生育と環境	<ul style="list-style-type: none"> 我が国で生産される有用林木を中心に、針葉樹と広葉樹の形状や幹の細胞組織など樹種の性状及び主な樹種の用途について学び、樹種の性状と用途との関係について理解する。 林木の観察や調査などを通して、主な林木の形態や生育特性、林木の生育と環境要因が相互に関係していることを理解させる。 			学年末